

(人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に則る情報公開)

『多モダリティ評価指標を用いた脊髄小脳変性症患者に対するリハビリテーション介入の効果検討: 継続課題』

本研究への協力を望まれない場合は、問い合わせ窓口へご連絡ください。研究に協力されない場合でも不利益な扱いを受けることは一切ございません。

本研究の研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧をご希望の場合や個人情報の開示や個人情報の利用目的についての通知をご希望の場合も問い合わせ窓口にご照会ください。なお、他の研究参加者の個人情報や研究者の知的財産の保護などの理由により、ご対応・ご回答ができない場合がありますので、予めご了承ください。

【対象となる方】

2018年月日より2023年12月31日までの間に、脳神経内科で脊髄小脳変性症のリハビリテーションを入院・外来で受けられた方

【研究期間】

研究実施許可受領後(2023年XX月XX日)より2028年12月31日まで

【研究代表者】 脳神経内科 高橋祐二

【研究責任者】 身体リハビリテーション部 原貴敏

【試料・情報の利用目的及び利用方法】

当センターでは、脊髄小脳変性症(SCD)の方を対象に「集中リハビリテーションプログラム」を2016年より実施しております。参加者の皆様には好評を頂いており、今後もプログラム内容の充実を目指して研究を進めて参ります。これまでリハビリテーションの効果を明らかにするため、既存のバランス機能評価などを使用してきました。また、計測機器を用いた計測も一部実施してきました。これらのデータを解析し、リハビリテーションの効果を明らかにするとともに、改善点を思索していきたいと思っております。これらの一連の研究により、SCDの主症状であるバランス障害をより詳細に評価・診療できるようになることを目指します。また、一部のデータは共同研究機関にて専門的な解析を実施する予定です。その際は、個人が特定できないようにデータを加工し利用します。

【利用又は提供する試料・情報等】

情報等: 診療録(年齢、性別、診断名、リハビリテーション治療を実施する上で実施した評価など)

提供する試料・情報の取得の方法

情報: カルテの診療録から入手

【共同研究機関】

電気通信大学

研究責任者 船戸徹郎

東京都立大学 研究責任者 児玉謙太郎
東京医科歯科大学 研究責任者 本多武尊

【共同研究機関以外の試料・情報を取り扱う機関】
なし

○問い合わせ窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター

所属 身体リハビリテーション部 氏名 板東 杏太

電話番号

e-mail:kyota.bando※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)

○苦情窓口

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター倫理委員会事務局

e-mail:ml_rinrijimu※ncnp.go.jp(「※」を「@」に変更ください。)